

Café des open

三浦一族

Menu 第4回

三浦義村に関する書状

文／谷合伸介（横須賀市立中央図書館 郷土資料室）

現在、横須賀美術館で開催中の「運慶 鎌倉幕府と三浦一族」展は、本年9月4日（日）まで開催され、その後、神奈川県立金沢文庫で10月7日（金）～11月27日（日）の期間、開催されます。本展覧会は、貞応2年（1223）に没した運慶の800年遠忌を記念し、鎌倉幕府と三浦一族の關係に着目しながら、その事績を関連作品とともに明らかにする内容です。横須賀市内に残る運慶および運慶工房作とみられる仏像を中心に、約50点の文化財を展示し、三浦半島の歴史と文化に新たな光を当てるものとなっています。

そうした貴重な仏像が魅力の展覧会ですが、このコーナーでは、展示資料の1つである三浦義村に関する古文書について、ご紹介します。今回、東京国立博物館から「香宗我部家伝証文(こうそがべかでんしょうもん)」という資料をお借りすることができました。この資料は、江戸時代、下総国佐倉堀田家に仕えた香宗我部家に伝来した文書で、その祖は、鎌倉時代初期に土佐国香美(かみ)郡宗我・深淵(ふかぶち)郷(ともに高知県香美郡野市(のいち)町)の地頭として入部し、戦国時代末期には長宗我部氏(ちょうそがべし)の一門として活躍しました。この中から、義村に関する古文書を金沢文庫と横須賀美術館で1点ずつ展示する予定で、2点の資料とも義村が土佐守護の立場にあったことを窺わせる内容が記されています。守護は、鎌倉幕府が国ごとに設置した役職で、国内の軍事・警察業務を担当しました。義村は、土佐の他にも、相模・河内・紀伊・淡路・讃岐等、多くの国の守護をつ

とめましたが、土佐はそのなかでも比較的早い時期から任国として確認できる国です。

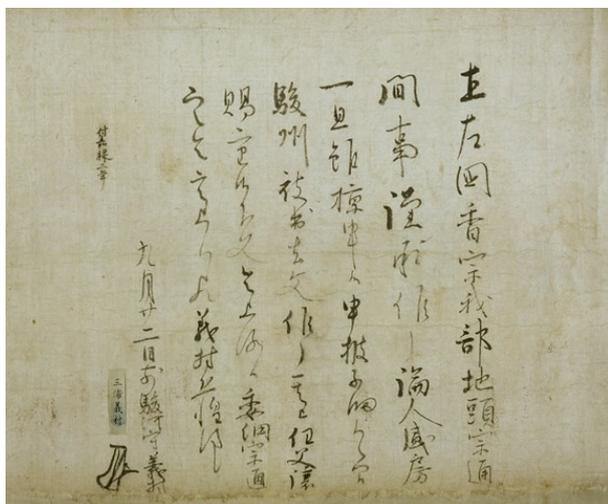
1点目の資料は、建仁3年(1203)8月4日付北条時政書状で、義村を宛所とする唯一の現存文書とされています。土佐守護である義村に対し、時政が土佐明道という人物の所領支配が実行されるよう働きかけていた様子が記されています。こちらは金沢文庫で展示される予定です。

2点目の資料は、以下に掲載している嘉禄2年(1226)9月22日付三浦義村書状で、義村の花押を載せる唯一の現存文書となっており、現在、横須賀美術館で展示されています。この書状には、宛所の記載がなく、誰に宛てたものか明確ではありませんが、義村が土佐国香宗我部郷(高知県香美郡野市町)の地頭職(じとうしき)をめぐる相論となっていた「宗通」(中原宗通)と「盛房」との裁判結果を伝える内容となっています。具体的には、宗通が被告人である盛房によって一旦地頭職を奪われるも、幕府に自らの正当性を主張したところ、「駿州」(北条重時)が「去文(さりぶみ)」(権利を放棄する文書)を記し盛房の権利を否定したため、宗通は父の譲り状のとおり、再度將軍家の下文(くだしぶみ)を賜り上洛することを義村が伝えています。

いずれの資料も、鎌倉時代の古文書で、鎌倉幕府で北条氏に匹敵する力を有することとなる義村の姿を今に伝える貴重な資料です。ぜひ各会場でご覧ください。

【参考文献】『新横須賀市史資料編古代・中世Ⅰ』(2004年)

《三浦義村書状》



(東京国立博物館蔵)

<https://webarchives.tnm.jp/> から掲載

《翻刻文》

土佐国香宗我部地頭宗通
間事、謹承候了、論人盛房
一旦雖掠申候、申披子細候之間、
(北条重時)
駿州被出去文候了、其上任父讓、
賜重御下文、令上洛候、委細宗通
定令言上候歟、義村恐惶謹言、
九月廿二日 前駿河守義村
付嘉禄二年 (押紙) 三浦義村 (花押)